

税金を大切に

大阪府立咲くやこの花中学校3年A組 小田 七歌

税金。それは国をよりよくするための大切なお金だ。そんな税金を大事に使うために、今、中学生の私たちができることは何だろうか。

税金を大事に使うということは、税金でつくられたものを大事に使うことだと思います。教科書や図書館の本、机、椅子、黒板、プール、ほうき、水道水など、学校は税金で作られたもので溢れている。私たちにとってそれらを使うことはあたり前で、つい税金のおかげだということを忘れがちだ。学校の机に落書きをする人、水道水を出しっぱなしにしてしまう人、図書館の本を破ってしまう人……。悪気がなくても、それらは税金の無駄遣いになってしまふ。私たちが学校のものを大切に使うことで、少しでも税金を減らすことができ、社会に貢献できるかもしれない。

学校だけではなく、税金は色々な場面で活躍している。最も多い税金の歳出は社会保障で、医療、年金、介護、福祉などの財源とな

っている。新型コロナウイルス関係でも、マスクやPCR検査、GOTOキャンペーン、ワクチン接種などで税金が大活躍した。また自国ばかりでなく、国際社会の平和を願って世界の人々の支援に使われることもあるそう

だ。貧困や食糧不足の国に向けてお金を貸したり、ダムや道路、病院をつくったり、病院で使う薬や注射などを送ったりしてたくさんの人々を税金の力で救っているそう

だ。このようにたくさん

の使い道が正しいのかを考えることもこの先必要になると思う。日本は消費税を増税しているのにも関わらず社会保障が他国と比べてあまり安定していないことが問題視されている。しかし使い道をもう一度考え直し改めることで、この問題は解決できるかもしれない。

税金についてあまり知識のない私だが、税金について関心を持ち、他人事だと思わずに税金のことをしっかりと考えられるようになりたい。

まだ中学生の私たちには、消費税を払うことと、自分たちが税金でつくられたものに支えられていることを自覚し、物を大切にすることしかできないかもしれない。しかしあと数年も経てば社会人になり、所得税や、住民税など、様々な種類の税金を自分自身で国に納めることになる。そのときには少子高齢化によって働き手が少なくなる分、税金の負担は今よりも大きくなっているかもしれない。

それでも私たちは大人に支えられてきた分、今度はその大人たちを支える立場にならなければいけない。そしてその任務を終えたあと、また高齢者として支える立場になるのだ。私も将来、社会の一員として、高齢者や子どもそして国や自分自身のために、しっかりと税金を納められる立派な大人になりたい。